

資料 1 - 4

平成 2 9 年度分

# 施 策 評 価 票





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 環境講座・イベント等の開催回数	回	28	↗	↗	24	85.7%
2 里山保全活動の団体数	団体	11	↗	↗	11	100.0%
3 保全活動に関する情報提供回数(広報)	回	36	40	38	19	50.0%
4 保全活動に関する情報提供回数(HP)	回	11	15	13	12	92.3%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおり実施することができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	目標には至らなかったが、ほぼ現状維持することができた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	概ね計画どおり推進できた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 1. 自然環境の保全・活用

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.95		3.64		
平成 27 年度	3.01	0.06	3.60	▲ 0.04	
平成 29 年度	3.01	0.00	3.56	▲ 0.04	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	今後は、市民団体が行う事業に対する支援を強化するとともに、これまで自然環境講座等にあまり参加してこなかった市民の関心が向くような魅力ある事業を企画検討していく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	市民と協働で管理する公園数	箇所	22	28	25	27	108%
2	市民管理による公園内花壇の数	箇所	10	20	14	13	93%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	ほぼ目標どおりの活動実績となったため
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標値に達する実績となったため
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	総合的に概ね計画どおりであったため

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 2. 公園・緑地の整備・保全

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.97		3.59		
平成 27 年度	3.04	0.07	3.60	0.01	
平成 29 年度	3.03	▲ 0.01	3.61	0.01	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	ほぼ計画どおりに施策が推進されているが、より一層の公園・緑地の質の向上やまちなかの緑の充実を進めていく必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
※具体的な見直し内容等	木下交流の杜公園等整備事業については、平成29年度をもって整備が完了したため事業からはずす。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 市民1人1日あたりのごみ排出量	g	899	696	727	863	20.9%
2 資源化率	%	20.0	30.0	28.0	18.8	67.1%
3 太陽光発電システム設置件数 (補助対象分累計)	件	1,248	2,400	1,848	1,808	97.8%
4 合併処理浄化槽設置基数 (補助対象分累計)	基	3,167	3,500	3,427	3,444	100.5%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおり実施することができた。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	目標に達していないが、高い水準を維持している。
③ 総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	さらに資源を有効利用し、循環型社会の形成を推進していく。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 3. 環境負荷低減・環境美化の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.76		3.64		
平成 27 年度	2.78	0.02	3.63	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.85	0.07	3.62	▲ 0.01	

#### 4. ごみ減量・リサイクルの推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	3.06		3.71		
平成 27 年度	3.09	0.03	3.68	▲ 0.03	
平成 29 年度	3.10	0.01	3.62	▲ 0.06	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	ごみの減量化・資源化については、社会経済情勢の様々な要因により、ごみの排出量は変動していくため、できるだけ実効性のあるごみ減量施策等を継続して実施し、中長期先を見据えての事業推進が必要である。 合併処理浄化槽、住宅用省エネルギー設備等の補助事業については、概ね計画通りの成果を上げており、今後も継続して設置を促進していく。
----------------	--

今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	ゴミゼロ運動参加団体数	団体	189	207	198	185	93%
2	クリーン印西推進運動参加団体数	団体	173	186	179	176	98%
3	不法投棄件数 (うち市民等からの通報件数)	件	212 (49)	↓	↓	126 (51)	168% 96%
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	目的達成のための手段として、市民が参加できるものであり、妥当と考える。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	いずれの実績値も、90%以上の達成をしているため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	いずれの実績値も、90%以上の達成をしており、不法投棄についてはH26年度と比べ86件減少している。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 3. 環境負荷低減・環境美化の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.76		3.64		
平成 27 年度	2.78	0.02	3.63	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.85	0.07	3.62	▲ 0.01	

#### 4. ごみ減量・リサイクルの推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	3.06		3.71		
平成 27 年度	3.09	0.03	3.68	▲ 0.03	
平成 29 年度	3.10	0.01	3.62	▲ 0.06	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	歩行喫煙やごみのポイ捨てなどに対する、防止意識の浸透が難しい。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	自主防災組織の数	組織	86	110	98	91	92.9%
2	緊急情報発信システムへの登録者数	人	9,763	11,000	10,400	9,813	94.4%
3	消防団員の充足率	%	88.3	100	94	91	97.2%
4	消防水利の充足率	%	98.0	100	99	98	99.0%
5	災害用防災井戸設置数	基	3	9	6	5	83.3%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	すべての項目でほぼ目標どおり達成できた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	すべての項目で80%以上を達成できた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともにBであり、ほぼ計画通りに推進できた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 5. 防災体制・災害対策の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.84		3.80		
平成 27 年度	2.92	0.08	3.81	0.01	
平成 29 年度	2.87	▲ 0.05	3.76	▲ 0.05	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	多様化する災害に対応するため、施設整備・修繕を計画的に行う必要がある。 防災意識のさらなる高揚を図るため、広報活動の工夫が必要である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	

# 施策評価票

取りまとめ部課名	市民部 市民活動推進課	施策番号	1-③-2
関係する課等	土木管理課 経済政策課		

基本目標	1	恵まれた自然の中でやすらぎを持って生活できるまちをつくる【生活環境】		
政策	③	市民の安全を守り安心して生活できる環境づくりを推進する〔防災・防犯〕		
施策	2	犯罪や事故から市民を守る、安全・安心社会の構築	重点施策	新しい成長

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	市民が事故や犯罪にあわずに日常生活を送れることをめざし、一人ひとりの防犯意識の高揚を図っていきます。また、交通事故撲滅のため、交通安全意識を高める取り組みと合わせて交通安全施設等の整備を進めていきます。 印西市消費生活センターを拠点として、消費生活に関する情報提供や相談、講座の充実を図ることでトラブルを未然に防げる賢い消費者づくりを進め、消費者被害の防止を図っていきます。
主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防犯体制の充実 窃盗や振り込め詐欺、架空請求などから市民が身を守る知識を得られるよう、防犯講話の実施や犯罪発生情報の提供を通じ防犯意識の高揚を図るとともに、市民の自主的な防犯活動を促進します。また、警察や防犯組合、地域団体との連携協力や、青色回転灯装着車両を使用したパトロールを実施するなど強固な地域防犯体制を構築していきます。</li> <li>●防犯施設の整備 夜間の公道上の犯罪の発生を抑止するため、防犯灯や防犯カメラなどの防犯施設を計画的に整備していきます。</li> <li>●交通安全の推進 高齢者や園児・児童・生徒、また成人まで含めた市民を対象とした交通指導員による交通安全教室の継続的な開催や交通安全パトロールの実施、啓発活動等を実施することにより、市民の交通安全に対する意識の高揚を図り、交通事故の防止に努めます。また、歩行者の安全な歩行空間を確保する観点から、駅周辺に指定した放置禁止区域において放置自転車等の解消に努めます。</li> <li>●交通安全施設の整備 交通事故の発生する危険箇所を把握し、信号機、標識、反射鏡等の交通安全施設を、関係機関と連携し整備していきます。</li> <li>●消費生活に関する知識の普及 市民が正確な知識や情報に基づいて自らの確かな判断のもと購買活動を行うことができるよう、千葉県消費者センター等の関係機関と連携しながら消費生活講座等を実施し、正しい知識を普及させていきます。</li> <li>●消費生活相談の充実 悪質商法などから市民を守るとともに、また実際に被害にあった場合に迅速かつ的確な対応を行えるよう、印西市消費生活センターを拠点に消費者問題に関する情報の提供や相談体制の充実を図ります。</li> </ul>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
防犯対策事業	市民活動推進課	●	○	B	B	B	事業拡大
防犯活動拠点施設運営事業	市民活動推進課		○	B	B	B	事業継続
交通安全啓発事業	市民活動推進課		○	B	B	B	事業継続
放置自転車等対策事業	市民活動推進課		○	B	B	B	事業継続
交通安全対策施設整備事業	土木管理課			B	F	B	事業継続
消費生活相談事業	経済政策課			B	A	A	事業継続

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 刑法犯認知件数(窃盗犯)※29年分	件	778	↓	690	579	226.1%
2 防犯講話の参加者数	人	369	500	400	353	88.3%
3 駅前街頭防犯カメラの設置数	台	38	48	47	44	93.6%
4 交通人身事故発生件数※29年分	件	200	↓	185	224	82.6%
5 交通安全教育の参加者数	人	7,037	7,300	7,150	7,304	102.2%
6 消費生活講座の受講者数	人	78	120	120	227	189.2%
7 (市)消費生活センター相談件数	件	388	現状維持	400	452	113.0%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおりの活動実績となったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標値に達する実績となったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともにBであり、概ね計画通りに推進できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 6. 防犯・交通安全対策の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.61		3.77		
平成 27 年度	2.72	0.11	3.79	0.02	
平成 29 年度	2.66	▲ 0.06	3.74	▲ 0.05	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	犯罪も多様化しており、特に高齢者には、被害に遭わないための対策等について講話や啓発等を実施することにより、被害の未然防止に努める。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 民生委員・児童委員の活動数	件	8,439	8,500	8,470	9,288	109.7%
2 福祉ボランティア登録者数	人	1,213	1,500	1,350	1,262	93.5%
3						
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおりの活動実績となったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標値に達する実績となったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともにBであり、概ね計画通りに推進できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 7. 地域福祉の充実・社会保障制度の普及啓発

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.58</b>		<b>3.66</b>		
平成 27 年度	<b>2.66</b>	0.08	<b>3.68</b>	0.02	
平成 29 年度	<b>2.73</b>	0.07	<b>3.59</b>	▲ 0.09	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	地域における支え合いのネットワークづくりや、ニュータウン地区における民生委員等の地域福祉活動の担い手確保が課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	生活保護からの自立世帯数	世帯	6	10	10	13	130.0%
2	生活困窮からの自立世帯数	世帯	-	50	30	35	116.7%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおりの活動実績となったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	2指標とも目標値を超える実績となったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	事業が概ね計画通りに実施でき、手段及び状況に対して十分な評価となったため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 7. 地域福祉の充実・社会保障制度の普及啓発

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.58</b>		<b>3.66</b>		
平成 27 年度	<b>2.66</b>	0.08	<b>3.68</b>	0.02	
平成 29 年度	<b>2.73</b>	0.07	<b>3.59</b>	▲ 0.09	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	生活保護法、生活困窮者自立支援法に基づき事業を行う。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	

# 施策評価票

取りまとめ部課名	健康福祉部	保育課	施策番号	2-②-1
関係する課等	子育て支援課 健康増進課			

基本目標	2	やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる【健康福祉】		
政策	②	安心して子育てができる環境づくりを推進する〔児童福祉・子育て〕		
施策	1	ライフスタイルにあわせた多様な子育て支援策	重点施策	新しい成長

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	市民が安心して子どもを出産し育てていけるよう、子ども・子育て支援事業計画等に基づき、待機児童解消への取り組みをはじめとして、多様な保育サービスの展開や良好な保育環境づくりを進めていくとともに、経済的、精神的負担の軽減など子育て家庭への適切な支援を進めていきます。
主な取り組み	<p>●保育園待機児童対策と保育サービスの充実</p> <p>子育て世代の人口流入や共働き家庭の増加を主な要因とした保育需要の増加に対応するため、認可保育園の新設を中心に保育の受け皿拡大を進め、保育園待機児童の解消に努めるとともに、保護者からの多様な保育ニーズに対応できるよう保育サービスの充実を図ります。</p>
	<p>●放課後児童対策の充実</p> <p>学童保育への需要の高まりに対応するため、指導員の育成・確保を図るとともに、施設の整備を計画的に実施し、児童を安全かつ健全に育成する場を確保していきます。</p>
	<p>●子育て家庭への生活支援の推進</p> <p>市民が安心して子育てできるよう、児童手当の給付や中学校3年生までの医療費助成、私立幼稚園への就園に対する助成など子育て家庭の経済的な負担軽減を図ります。また、一時的に家事、育児等の支援が必要な場合などにおける生活支援サービスの充実を図ります。</p>
	<p>●ひとり親家庭への生活支援の充実</p> <p>生活上の悩みや不安に対するきめ細かな相談や情報提供、高校生までの医療費を助成するなどの経済的な負担軽減を図るとともに、就業のための技術習得に関する助成などを行い、生活の自立を支援していきます。</p>
	<p>●妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援</p> <p>地方創生総合戦略の少子化対策として、若い世代の妊娠・出産・子育てに対する希望をかなえるため、安心して子どもを産むための支援や、企業や地域などで子育て家庭を支える取り組みを推進していきます。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
保育園運営事業	保育課	●	○	A	D	C	事業継続
認可外保育施設認可化移行支援事業	保育課			B	B	B	事業継続
保育園施設整備改修事業	保育課	●		B	F	B	事業継続
放課後児童健全育成事業	保育課	●		B	C	C	事業継続
学童クラブ施設整備事業	保育課			F	F	F	事業継続
児童手当の給付	子育て支援課			B	B	B	事業継続
子ども医療費助成事業	子育て支援課	●	○	A	F	A	事業継続
高校生等医療費助成事業	子育て支援課	●		A	F	A	事業継続
子育てヘルプサービス事業	子育て支援課		○	B	A	A	事業継続
ひとり親家庭等支援事業	子育て支援課			A	A	A	事業継続
特定不妊治療費助成事業	健康増進課	●		A	A	A	事業継続

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 保育園待機児童数(10月1日現在) (入園児童数・4月1日現在)	人	91 (1,343)	0 (1,701)	0 (1,777)	217 (1,941)	
2 学童保育待機児童数 (学童保育利用児童数)	人	18 (832)	0 (1,077)	0 (981)	53 (1,075)	
3 子育てヘルプサービス利用者数	人	67	100	65	120	185%
4 特定不妊治療費助成の利用者数	組	-	90	75	92	123%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	ほとんどの事業で目標通り又は目標を上回る活動 ができた。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	状況の変化により、目標を下回ってしまう事業が あった。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	全体的に計画通りの推進ができていと思われ るが、状況の変化に対応するため、一部計画の見 直しは必要と思われる。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 8. 児童福祉・子育て支援体制の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.76		3.69		
平成 27 年度	2.80	0.04	3.73	0.04	
平成 29 年度	2.76	▲ 0.04	3.70	▲ 0.03	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進して いく上での課題	ニュータウン地域を中心とした新規住宅の分譲など、住民の増加による子育てニーズの増加に対し、どのように対応していくかが課題である。
今後の施策展開 の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	保育の待機児童対策として、特に保育需要の増加が見込まれる牧の原駅圏に民間事業者による認可保育園新設を進め、保育の受け皿拡大を図る。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	子育て支援センター利用者数	人	44,455	53,500	47,000	72,718	154.7%
2	ファミリーサポート登録者数(提供会員数、ただし両方会員を含む)	人	88	150	150	150	100.0%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画どおりの実績だった。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	概ね達成できている。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	目標達成のために継続して事業に取り組んでいく。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 8. 児童福祉・子育て支援体制の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.76		3.69		
平成 27 年度	2.80	0.04	3.73	0.04	
平成 29 年度	2.76	▲ 0.04	3.70	▲ 0.03	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	ファミリーサポートセンターの利用について、利用会員数が年々増加しているのに対して提供会員数が増えていないので、今後十分なサービスを提供するためには周知活動を強化して提供会員の増加に努める必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 介護支援ボランティアの登録人数	人	74	110	90	64	71.1%
2 高齢者就労支援センターの講習会受講者数 (受講後に就労した人数)	人	160 (3)	200 (20)	175 (12)	93 (2)	53.1% 16.7%
3						
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画どおりの実績であった。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	高齢者就労支援センターにおいては、講習会の実施回数が当初の計画より少なかったため実績値も低くなった。
③ 総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	高齢者就労支援センターにおいては、講習会の実施回数が当初の計画より少なかったため実績値も低くなった。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 9. 高齢者福祉の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.66</b>		<b>3.68</b>		
平成 27 年度	<b>2.59</b>	▲ 0.07	<b>3.69</b>	0.01	
平成 29 年度	<b>2.59</b>	0.00	<b>3.67</b>	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	介護支援ボランティアの登録者数は、毎年登録の更新の時期に減っている。ボランティアを募集するための周知・啓発も広報に掲載するのみに留まっているため、改善が必要である。 高齢者就労支援センターにおいては、事業収支や講習会参加者の満足度では良好な結果を残しているが、講習会の回数や参加者数が目標値に達していない。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	いんざい健康ちよきん運動の実施か所数	か所	15	25	19	58	305.3%
2	認知症サポーター養成数	人	747	1,000	850	1,117	131.4%
3	要支援・要介護認定者数の割合	%	13.8	13.6	13.4	13.1	102.3%
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	計画以上、やや下回る活動実績・成果はあったものの、主にほぼ計画どおりの活動実績・評価であった。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	いんざい健康ちよきん運動の実施か所数や認知症サポーター養成数は達成度110%以上を超えており、要支援・要介護認定者数の割合も80%以上の達成状況である。
③ 総合評価	A 計画以上に施策を推進できた	計画以上または計画通りに施策を推進できている。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 9. 高齢者福祉の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.66		3.68		
平成 27 年度	2.59	▲ 0.07	3.69	0.01	
平成 29 年度	2.59	0.00	3.67	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。


平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	いんざい健康ちよきん運動の実施か所や認知症サポーター養成数は、増加しているものの、十分な地域包括ケアシステムの構築には至っていない。 要支援・要介護認定数は目標値に達しているものの、介護予防事業の充実を図る必要がある。 身近な地域で対応が図れるよう、地域包括支援センターを5か所に増設したところ、充分効果があったと思われるが、実態調査については目標に達しないところもあった。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	介護支援ボランティア事業の受け入れ施設や動いて！認知症予防等の介護予防事業の実施状況を検討し、各地域包括支援センターの地域のネットワークなどを活用しながら、いんざい健康ちよきん運動を推進していくとともに、実態調査の対象者把握を行っていく。 地域包括支援センターの総合相談件数は増加しているため、引き続き、必要に応じて、ケアプランの作成を行っていくとともに高齢者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう、国の動向等を注視しながら、在宅福祉サービスや介護保険サービス等を実施していく。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	通所障がい者施設数	施設	7	10	8	8	100.0%
2	地域生活支援拠点等の整備	施設	0	1	1	1	100.0%
3	就労相談を通じて、就労した人数	人	18		25	18	72.0%
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	今後も目的を達成できるような手段を検討していく。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	各施設において、概ね目標値である。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	目的達成の手段を検討しながら、今後も継続して目標達成のために継続して事業に取り組んでいく。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 10. 障がい者福祉の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.76</b>		<b>3.61</b>		
平成 27 年度	<b>2.78</b>	0.02	<b>3.64</b>	0.03	
平成 29 年度	<b>2.78</b>	0.00	<b>3.63</b>	▲ 0.01	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	障がい者福祉への関心が高く、満足度は低いという結果を踏まえ、今後も引き続き障がい者への支援の充実と、社会参加の促進へ向けての事業を継続していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	

# 施策評価票

取りまとめ部課名	健康福祉部	健康増進課	施策番号	2-④-1
関係する課等	国保年金課 環境保全課ほか			

基本目標	2	やさしさを持っていきいきと暮らせるまちをつくる【健康福祉】		
政策	④	誰もが健康で元気に暮らせる環境づくりを推進する【健康・医療】		
施策	1	生涯いきいきと健やかに暮らすための健康づくりの推進	重点施策	持続可能

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	生涯いきいきと健やかに暮らすため、市民一人ひとりが自らの健康づくりについて学び、実践できるよう、食育や歯と口腔を含めた健康教育等により健康づくりの意識啓発に努めます。また、健康の保持・増進や疾病の予防・早期発見に向けて各種健康診査等を実施するとともに、母子保健対策事業などにより、子どもの健やかな成長を支援する体制の充実を図っていきます。さらに、市民の生命や健康を脅かす感染症、放射線問題等の危機管理対策として、拡大防止や適切な情報の提供に努めていきます。
主な取り組み	<p>●健康診査の充実 疾病を早期に発見し生活習慣の改善指導や適切な治療へと結びつけるため、特定健康診査、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、口腔疾患健診、骨粗しょう症検診等を実施します。特に若い世代での健診が医療費抑制の面からも有効なことから、39歳以下健康診査などの取り組みを進めます。また、国民健康保険及び後期高齢者医療の被保険者には、人間ドック等の費用助成を行い、市民の健康増進を支援します。</p> <p>●母子保健の充実 妊婦・乳幼児健診や家庭訪問、相談事業等を充実させ、妊娠・出産期、乳幼児期の親子の適切な健康管理と出産や育児に関する不安の解消を図ります。また、出産・育児に関する正しい意識の醸成を図るため、思春期保健対策についても進めていきます。</p> <p>●感染症予防・拡大対策の推進 感染症に関する知識の普及に努めるとともに、市民が予防接種法に定める定期予防接種や結核などの検診を積極的に受けることを働きかけ、感染症の発生、拡大を防止します。</p> <p>●健康危機管理対策の推進 地震などの大規模な災害に備えるとともに、食中毒、医薬品被害など、市民の生命や健康を脅かす被害の発生予防と拡大防止を図ります。また、新型インフルエンザ等対策行動計画などにに基づき、病原性の高い新型インフルエンザ等が発生した場合は、感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康の保護に努めます。さらに、福島第一原子力発電所の事故における放射線問題については、国、県など関係機関と連携しながら必要に応じた対策を講じていくとともに、迅速な情報収集と適切な情報提供を行い、市民が安心して生活できる環境づくりを進めます。</p> <p>●健康づくり活動の促進 各種健康教育、健康相談等により健康づくりに関する知識の普及や意識の高揚を図るとともに、健康づくりセンター等の実践的な健康づくりの場を提供し、市民一人ひとりの健康の保持・増進を図ります。また、自分たちの健康づくりを市民が自主的に実行する体制の整備に努めます。</p> <p>●食育の推進 様々な経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な食生活を実践することができるよう、食育推進計画に基づいて、関係機関とのネットワークづくりや啓発事業、保健指導等を行います。</p> <p>●歯の健康づくりの推進 歯の健康や口腔衛生は心身の様々な健康状態に密接に関わることから、啓発事業や保健指導等により正しい知識や習慣を普及させ、生涯を通じた歯の健康づくりを促進していきます。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
健康診査事業	健康増進課		○	B	B	B	事業継続
がん検診事業	健康増進課	●	○	B	B	B	事業継続
特定健診・特定保健指導	国保年金課			B	B	B	事業継続
人間ドック等受検費用補助事業	国保年金課			A	B	A	事業継続
乳幼児健診事業	健康増進課	●		B	B	B	事業継続
出産育児支援事業	健康増進課	●		B	B	B	事業継続
予防接種事業	健康増進課		○	B	B	B	事業継続
結核検診事業	健康増進課			B	B	B	事業継続
健康危機管理対策事業	健康増進課			B	B	B	事業継続
放射線問題対策事業	環境保全課ほか			B	F	B	事業継続
保健対策推進事業	健康増進課			B	B	B	事業継続
健康づくり事業	健康増進課	●	○	B	B	B	事業継続
健康支援事業	健康増進課			B	A	B	事業継続
地区健康推進員活動事業	健康増進課			B	B	B	事業廃止
食育推進事業	健康増進課	●		C	B	B	事業継続
歯科保健事業	健康増進課		○	B	B	B	事業継続

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 各種がん検診精密検査の平均受診率 (肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん)	%	88.8	100	96.0	91.0	94.8%
2 新生児出生数に対する産婦訪問の割合	%	91.5	100	97.0	96.9	99.9%
3 就学前におけるMR接種率 (麻しん・風しん)	%	92.7	100	95.0	93.3	98.2%
4 健康づくりセンター利用者数	人	16,161	16,500	16,200	18,224	112.5%
5 健康教育の実施回数 (保健師・栄養士・歯科衛生士)	回	410	▲	▲	406	99.0%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	各施策ともおおむね順調に進んでいる
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	29年度の目標値に届かないものの計画策定当初より目標値に近づいている
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各施策ともおおむね計画通りに実施できたため、引き続き施策の充実及び推進に努める

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 11. 健康増進・医療体制の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.79		
平成 27 年度	2.63	▲ 0.10	3.79	0.00	
平成 29 年度	2.83	0.20	3.75	▲ 0.04	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	各施策ともおおむね計画通りに実施できたが、今後も市民一人ひとりが健やかに暮らしていくため、引き続き施策の充実及び推進に努める。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 医療施設数	施設	88 (※H25)	↗	↗	92 (※H27)	
2						
3						
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	印旛市郡小児初期急病診療所への負担金拠出による財政的支援、広報紙による周知啓発が実施できた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	新たに開業した診療所について、市HPへの掲載による周知を図った
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	おおむね計画通りに推進できたので、引き続き医療体制の充実に努める

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 11. 健康増進・医療体制の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.79		
平成 27 年度	2.63	▲ 0.10	3.79	0.00	
平成 29 年度	2.83	0.20	3.75	▲ 0.04	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	様々な市民ニーズに対応するため、病院や診療所等、関係機関との情報交換による連携を図り、一層の情報の共有化に努める。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



# 施策評価票

取りまとめ部課名	環境経済部	農政課	施策番号	3-①-1
関係する課等				

基本目標	3	地域の持つ可能性を活かした魅力あるまちをつくる【産業振興】		
政策	①	食を支える農業の持続的な発展を図る〔農業振興〕		
施策	1	生産基盤の整備や担い手の確保による持続的な農業の実現	重点施策	成長・持続

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	<p>持続的な農業を実現するためには、効率的・安定的な農業経営を維持するとともに、高齢化・離農者の増加による遊休農地の発生等に対処していく必要があります。そのため、生産力の維持向上を目的とした生産基盤や営農技術の充実を図り、効率的な経営を実現するための多様な農業経営体を育成します。また農地の集積・集約化を図るための優良農地の利用集積や遊休農地の解消等の取り組みなどを進めていきます。</p>
主な取り組み	<p>●農業生産基盤の整備 農業の効率化や生産性の向上を図るため、国営かんがい排水事業(印旛沼二期地区)などの基盤整備事業や土地改良事業を促進し、優良な農地や農業水利、農業用施設等の確保充実を図ります。さらに、手賀沼地域については、土地改良事業により整備された施設等の老朽化や機能低下が懸念されるため、国営土地改良事業やそれに付帯する関連事業等について、関係機関と事業化の促進に向けた検討を進めていきます。</p> <p>●経営安定化の推進 安定した農業所得を確保するため、関係機関と連携しながら、優れた営農技術の普及と農作物被害等の防止に向けた対策を進めるとともに、合理的な経営管理体制の構築や販路拡大に向けた経営改善指導に努めます。また、農業経営の近代化を図るための経済的支援として、制度資金や各種補助事業等の活用を促進します。</p> <p>●農地の利用集積と遊休農地の解消 関係機関との連携のもと、農業者の意向や農地の利用状況等を把握し、農地中間管理事業の活用などにより意欲ある担い手への優良農地の利用集積を促進するとともに、遊休化した農地の解消や再生のための取り組みを推進します。</p> <p>●家畜防疫体制の整備 家畜伝染病などを予防する体制の整備を促進し、安全で高品質な畜産物の生産や流通の確保を図ります。</p> <p>●農業後継者・新規就農者の育成・確保 県やJA、生産者等と連携しながら、営農指導や制度資金・各種補助事業の活用などを進め、農業後継者や新規就農者の育成や支援に努めます。また、農業版ハローワーク事業等の実施により農業労働力の確保を図ります。</p> <p>●農業経営体の育成 職業として魅力ある農業の確立をめざし、年間所得470万円以上(1経営体当たり)、年間労働時間2,000時間以下を目標とした農業経営体の育成を図るとともに、農業経営と生活の分離、機械の共同利用、作業の受委託などを促進し、企業的な農業経営体の育成を図っていきます。また、経営の法人化や集落単位、農業用水系統単位での組織化を誘導していきます。</p> <p>●鳥獣被害対策 有害鳥獣による農作物被害を防止するため、関係機関と連携を図りながら、対策を進めていきます。特に年々増加しているイノシシの農作物被害に対しては、計画的な捕獲及び捕獲従業者の確保に努めます。また被害農家と一体となり、防護柵の設置を行うほか、林縁等の草刈りや放置農作物・果樹の撤去を行うことで、鳥獣が侵入しにくい環境を整えていきます。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
土地基盤整備事業の促進	農政課	●	○	B	A	A	事業継続
農業経営基盤強化促進事業	農政課		○	B	B	B	事業継続
耕作放棄地解消事業	農政課		○	B	B	B	事業統合
農地中間管理事業	農政課			A	A	A	事業継続
家畜防疫事業	農政課			A	B	A	事業継続
新規就農促進事業	農政課	●		B	B	B	事業継続
鳥獣被害対策事業	農政課	●		A	B	A	事業拡大

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 農振農用地面積	ha	3,104	現状維持	3,104	3103	100.0%
2 遊休農地解消面積	ha	11	17	14	13.6	97.1%
3 認定農業者数	経営体	53	63	57	57	100.0%
4 農業版ハローワーク登録者数	人	114	136	126	120	95.2%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおり事業ができた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標どおり成果もあげられた
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	概ね計画通りに進められている。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 12. 農業振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.45		
平成 27 年度	2.72	▲ 0.01	3.44	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.67	▲ 0.05	3.43	▲ 0.01	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	農業の担い手の確保が近々の課題であることから、農業者の意向や農地の利用状況等を把握するとともに、小規模土地改良事業等により農業生産基盤の拡充や市内の優良な農業環境の確保を図る必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	市民農園の利用率(民間を含む)	%	85.0	90.0	87.0	99	114%
2	学校給食における地元産食材の利用率	%	41.1	45.0	42.5	52	122%
3	農業体験実施小学校数	校	17	21	19	6	32%
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	(仮称)市民農場整備事業が遅れたが、その他は概ね目標どおり事業ができた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	(仮称)市民農場整備事業が遅れたが、その他は概ね目標どおり成果もあげられた
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	(仮称)市民農場整備事業が遅れたが、その他は概ね計画通りに進められている。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 12. 農業振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.45		
平成 27 年度	2.72	▲ 0.01	3.44	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.67	▲ 0.05	3.43	▲ 0.01	

※満足度及び重要度の算出方法  
「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	いんざい産業まつり、農業体験教室等の実施により、消費者と生産者の交流を図り、地元農産物の消費を拡大し、地産地消の推進に努める。また、多面的機能支払交付金及び環境保全型農業の規模拡大を図り、農地農村の環境整備を推進するとともに地域農業の振興を図っていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	千葉ニュータウン業務用施設用地の利活用率	%	67.5	100.0	95.0	99	104.2%
2	市就労支援サイト登録事業者数	事業所	296.0	▲	480	528	110.0%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	A 妥当である	事業用地説明会でPRするなど、誘致活動を行うことができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	松崎工業団地は販売完了。千葉NT業務用地は分譲が進んでいるため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	関係機関等と連携しながら企業誘致に努めていく。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 13. 商工業振興・企業誘致

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.54		3.49		
平成 27 年度	2.53	▲ 0.01	3.48	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.55	0.02	3.42	▲ 0.06	

#### 14. 雇用対策の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.32		3.53		
平成 27 年度	2.42	0.10	3.50	▲ 0.03	
平成 29 年度	2.51	0.09	3.42	▲ 0.08	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市民雇用の割合が約2割という状況となっていることから、松崎工業団地協議会など、様々な機会を通じ、地元雇用について依頼していく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 商工会組織率	%	51.4	57.0	54.0	52.2	96.7%
2 創業セミナーの開催数	回	4	4	4	4.0	100.0%
3 創業セミナーへの参加者数	人	64	100	100.0	52.0	52.0%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	全事業ともに目標どおり進めることができた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	全事業ともに目標どおり進めることができた
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	全事業ともに目標どおり進めることができた

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 13. 商工業振興・企業誘致

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.54		3.49		
平成 27 年度	2.53	▲ 0.01	3.48	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.55	0.02	3.42	▲ 0.06	

#### 14. 雇用対策の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.32		3.53		
平成 27 年度	2.42	0.10	3.50	▲ 0.03	
平成 29 年度	2.51	0.09	3.42	▲ 0.08	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	産学官連携等促進事業の終了に伴い、市内にインキュベーション施設（産学連携オフィス）がなくなったことから起業や創業に関するニーズに対応していけるよう、検討していく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	新たな事業分野への進出、研究開発や経営・販路開拓等を目指して研究活動を行うものに対し、県内インキュベーション施設に関する情報提供及び創業セミナー(商工会共催)などの起業・創業支援関連事業を行うことにより、企業の育成や新ビジネスの創出を図る。





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 市観光協会ホームページのアクセス件数	件/ 月平均	1,720	1,820	1780	3,339	187.6%
2 観光イベント実施団体数	団体	5	6	6	6	100.0%
3 観光イベント事業数	事業	9	10	10	8	80.0%
4 イベント等のPR回数	件	11	12	12	14	116.7%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	各イベントにおいて観光PRを行い、好評を得た
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	HPのアクセス数やPR回数などは増加したが、イベント事業数の減少を考慮したため
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	HPや観光マップの充実を行った

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 15. 観光振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.54</b>		<b>3.12</b>		
平成 27 年度	<b>2.56</b>	0.02	<b>3.15</b>	0.03	
平成 29 年度	<b>2.61</b>	0.05	<b>3.17</b>	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	イベントや文化財等の把握、また担当課との速やかな連絡調整等を図る必要がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
※具体的な見直し内容等	シティプロモーション課の設立により、より市内外へのPR強化を図っていく。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	年間観光入込客数	人	1,022,000	1,635,000	1,100,000	1,034,167	94.0%
2	観光資源の件数	件	25	▲	26	24	92.3%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	観光情報誌印西市まっぷるの配布を開始し、好評を得ている
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標値に対して、わずかに届かなかったが、観光客数は上昇傾向にある
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	当初の予定通りに事業の実施を行った

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 15. 観光振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.54		3.12		
平成 27 年度	2.56	0.02	3.15	0.03	
平成 29 年度	2.61	0.05	3.17	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	印西市のHP内の観光情報の充実を図る。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	

# 施策評価票

取りまとめ部課名	教育部	指導課	施策番号	4-①-1
関係する課等	学務課	保育課		

基本目標	4	健やかな心と体を育み未来を拓くまちをつくる【教育・文化】		
政策	①	生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む〔学校教育〕		
施策	1	学ぶ力、豊かな心、健やかな体を育む教育の推進	重点施策	持続可能

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	子どもたちが変化の激しいこれからの社会を生き抜くことができるよう、知・徳・体の調和のとれた教育を推進していきます。また、学力の向上、心の教育、健康に関わる教育を充実させるとともに、子どもたちが望ましい食習慣を身につけることができるよう、発達段階に応じた食育も推進していきます。
主な取り組み	<p>●学ぶ力を育む教育の充実</p> <p>子どもたちの学ぶ力を育むために、学力の向上を中心にすえ、特別支援教育、キャリア教育、幼児教育、読書活動、英語教育、環境教育、本市ならではの特色ある教育活動などを推進します。教職員の研修を充実させ、教育の質の向上を図ります。</p>
	<p>●豊かな心を育む教育の充実</p> <p>実践的な道德教育、人権教育、体験学習、芸術文化体験事業で子どもたちの豊かな心を育みます。また、適応指導、教育相談を充実させ、問題を抱えた子どもたちの心を支えます。</p>
	<p>●健やかな体を育む教育の充実</p> <p>健やかな子どもたちを育てるために、学校体育を中心にすえ、健康教育、学校環境衛生の充実、運動部活動の充実を図ります。</p>
	<p>●学校給食の充実</p> <p>子どもたちが望ましい食習慣を身につけ、食を通して心身の健全な発達が図れるよう、給食センターを中心に、食に関する指導を充実させます。また、栄養バランスと衛生面に配慮した安全・安心でおいしい学校給食を提供していきます。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
きらり輝く印西の子供育成事業	指導課	●	○	C	C	C	事業統合
読書活動推進事業	指導課		○	C	B	B	事業継続
幼児教育の充実	学務課			B	B	B	事業継続
就園奨励事業	保育課	●		A	B	B	事業継続
学習指導の充実	指導課	●	○	B	B	B	事業継続
国際理解教育推進事業	指導課	●	○	B	B	B	事業継続
特別支援教育事業	指導課	●		B	B	B	事業継続
職場体験学習の推進	指導課			B	B	B	事業継続
芸術文化体験事業	指導課			B	B	B	事業継続
適応指導教室事業	指導課	●	○	B	B	B	事業継続
教育相談事業	指導課		○	B	B	B	事業継続
学校保健事業	指導課			B	B	B	事業継続
学校給食事業	指導課		○	B	B	B	事業継続

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	教職員研修への参加延べ人数	人	882	1,000	940	805	85.6%
2	一人あたりの学校図書館の貸出冊数	冊	23.9	30.0	27.0	26.5	98.1%
3	ALT教員数	人	10	16	16	11	68.8%
4	学校給食における食の指導の実施時数	時間	311	320	314	250	79.6%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通り実施されているため
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標値を達成しているため
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	実施計画事業、成果目標ともに概ね計画通り達成できたため

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 16. 学校教育の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.72</b>		<b>3.73</b>		
平成 27 年度	<b>2.73</b>	0.01	<b>3.74</b>	0.01	
平成 29 年度	<b>2.74</b>	0.01	<b>3.72</b>	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	特色ある教育活動実践校の指定校数, 学校司書の配置人数, 中学生の図書の貸出冊数の増
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 学校メール配信システムの登録率	%	94.5	100	98.0	93.9	95.8%
2 ホームページアクセス数(全学校合計)	千件	2,450	↗	2,480	4051	163.3%
3 学校支援ボランティアの活用率	%	93.2	100	97.0	96.6	99.6%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通りに事業を実施することができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標値を達成することができた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	実施計画事業の目的及び施策成果目標を概ね達成することができた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 16. 学校教育の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.72		3.73		
平成 27 年度	2.73	0.01	3.74	0.01	
平成 29 年度	2.74	0.01	3.72	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模の較差が拡大傾向にあるため、学校の適正規模・適正配置を推進していく必要がある。</li> <li>児童生徒・園児の安全で快適な教育環境を確保するとともに、長寿命化を図る改修工事を進める必要がある。</li> </ul>
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 講座等への参加者数(年間延べ)	人	6,144	6,500	6,300	3,862	61.3%
2 公民館等利用団体数	団体	730	750	741	850	114.7%
3 市民1人あたり図書館貸出点数 (視聴覚資料を含む)	点	8.9	10.0	9.4	8.6	91.5%
4 大学との連携事業数	事業	35	40	38	47	123.7%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通り実施されているため。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	概ね目標値を達成しているため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施計画事業、成果目標ともに計画通り達成できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 17. 生涯学習の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.81</b>		<b>3.35</b>		
平成 27 年度	<b>2.76</b>	▲ 0.05	<b>3.37</b>	0.02	
平成 29 年度	<b>2.70</b>	▲ 0.06	<b>3.35</b>	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	地域で活躍できる人材育成と市民アカデミ-受講生の高齢化に伴い、プログラム内容を一部検討して行く必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	子ども110番協力家庭・事業者数	件	1,543	1,620	1,600	1,461	91.3%
2	家庭教育学級参加者数	人	3,692	3,800	3,700	3,213	86.8%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通り実施されているため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	現状値から若干下回ってしまったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	やや目標値を下回るが、ほぼ計画通り達成できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 17. 生涯学習の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.81		3.35		
平成 27 年度	2.76	▲ 0.05	3.37	0.02	
平成 29 年度	2.70	▲ 0.06	3.35	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	少子化及び共働きに伴う家庭教育学級生の減少や、地域の高齢化による「110番の家」事業協力者の減少の対応を検討していく必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 市民スポーツ大会参加者数	人	8,948	10,000	9,500	8,640	90.9%
2 スポーツフェス・スポーツ教室参加者数	人	6,158	7,000	6,500	4,873	75.0%
3 スポーツ団体(体育協会・スポーツ少年団)加入者数	人	3,746	4,100	3,920	3,554	90.7%
4 スポーツ施設利用者数	人	353,674	406,000	380,000	447,571	117.8%
5 スポーツ指導者数	人	144	160	150	151	100.7%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	スポーツ団体の会員数等で一部目標を下回ったが、概ね計画どおりの事業実績・成果であったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	スポーツ教室の参加者数が目標値を下回ったものの、その他は概ね計画どおりの実績であったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通りの成果を達成することができたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 18. スポーツの振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.81		3.32		
平成 27 年度	2.83	0.02	3.30	▲ 0.02	
平成 29 年度	2.80	▲ 0.03	3.31	0.01	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	スポーツフェス・スポーツ教室の参加者数が目標値を下回っている。また、スポーツ少年団等スポーツ団体の会員数が減少傾向にあることから、これらの増に向けて周知を図っていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 文化ホール主催事業のうち有料公演の集客率	%	58	80	80	80	100.0%
2 文化・芸術の支援(ロビーコンサート)における集客率	%	73	80	80	90	112.5%
3 市内5公民館及び中央駅前地域交流館の年間利用者数	人	221,916	240,000	230,000	234,668	102.0%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	活動実績は、概ね計画通り実施でき、成果面については計画を上回ったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標値を達成しているため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通りにの成果を達成することができたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 19. 文化・芸術の保護・振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.27		
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	▲ 0.05	
平成 29 年度	2.76	0.01	3.24	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	文化・芸術分野は豊かな心や、地域に対する愛着心を醸成する大切な事業である。更に市民が芸術文化に興味関心を示し、他分野との交流の推進、次世代の育成が今後の課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 指定文化財件数	件	48	50	50	49	98.0%
2 資料館施設の入館者数	人	1,095	1,300	1,300	1228	94.5%
3						
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	目標値を概ね達成しているため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標値を概ね達成しているため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	各実施事業、成果目標ともに概ね計画通り達成することができたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 19. 文化・芸術の保護・振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.27		
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	▲ 0.05	
平成 29 年度	2.76	0.01	3.24	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	現状で分散している歴史的資料について、保管の集約化に努め有効に活用できるように検討していく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	市史刊行物の発行数	冊	52	63	56	56	100.0%
2	市史講座の受講者数	人	61	80	80	108	135.0%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	事業が概ね計画通りに実施できた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	A 全て目標値に達成した	事業が計画通りに実施できた
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	事業が概ね計画通りに実施でき、活動及び成果指標を達成できた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 19. 文化・芸術の保護・振興

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.73		3.27		
平成 27 年度	2.75	0.02	3.22	▲ 0.05	
平成 29 年度	2.76	0.01	3.24	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市史刊行事業は刊行計画に基づいて事業を進めているが、地域史料の保存・管理、活用は木下交流の杜歴史資料センターの開設により進捗がみられた。これからも継続的に事業を進めるには専門職員を適正に配置して地域史料の保存・管理体制の確立することが課題である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 国際交流関係行事への参加者数	人	364	400	385	449	116.6%
2 印西市国際化推進懇談会の開催数	回	2	2	2	2	100.0%
3 研修参加職員数	人	41	50	47	39	83.0%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	語学講座や国際交流イベントなど、開催数・参加者数ともに目標に達することができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	国際交流行事への参加者数は目標を上回ることができ、その他指標も概ね達成できた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	市国際交流協会主催のイベントなど、新たな取り組みもあり、活動・成果ともに実績が向上している。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 20. 国際交流・異文化理解の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.71		3.30		
平成 27 年度	2.70	▲ 0.01	3.32	0.02	
平成 29 年度	2.59	▲ 0.11	3.14	▲ 0.18	

**※満足度及び重要度の算出方法**  
 「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	事業評価、施策評価ともにほぼ目標を達成し、計画通りに推進できているものの、満足度が若干減少した。一方で重要度も減少していることから、事業効果の判断が難しい面がある。しかしながら、外国人市民は増加傾向であることから、多文化共生に向けた行政サービスの充実を図っていくことの重要性は増してくると考えられる。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 異文化理解講座の開催数	回	10	12	12	9	75.0%
2 印西市国際交流協会の会員数	人	174	185	185	170	91.9%
3 INZAI NEWS LETTERのホームページ 閲覧数	件	845	930	930	487	52.4%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	各種講座の開催数、参加者数ともにほぼ目標を達成できた。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	外国人向けのホームページによる情報発信の達成度が低かった。
③ 総合評価	C 施策の進捗がやや計画を下回る	実施計画事業は概ね目標を達成できたものの、施策の成果指標のすべてでやや計画を下回ったため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 20. 国際交流・異文化理解の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.71		3.30		
平成 27 年度	2.70	▲ 0.01	3.32	0.02	
平成 29 年度	2.59	▲ 0.11	3.14	▲ 0.18	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	実施計画事業は概ね計画通りに進捗しているのですが、施策評価の目標達成が課題であるが、市民の満足度、重要度ともに減少傾向であり、特に重要度は施策中で最も低い。多文化共生社会の推進のためには、市民の関心を高める必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	事業体系としては継続していくが、市国際交流協会の語学講座の受講生は増加傾向であり、また、H32年度の小学校の英語教科化に先駆け、印西市ではH30年度から指定校で英語教育を実施することから、これらの取り組みにより、多文化共生に対する市民意識の向上につなげていく。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	千葉ニュータウン事業の宅地処分率	%	75.7	100	93.93	99.48	105.9%
2	建築物の制限に関する条例の適用となった地区整備計画区域の数	地区	3	34	20	19	95.0%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	評価Bが4項目、評価Aが1項目と、ほぼ計画通りに目的達成できた
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	千葉ニュータウン事業の宅地処分率105.9% 建築物の制限に関する条例の適用となった地区整備計画区域の数95.0% 全体的に達成度が80%以上
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段・成果に対する評価値がともにBであり、ほぼ計画通りに施策を推進できた

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 21. 土地の有効利用・都市機能の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.20		3.54		
平成 27 年度	2.17	▲ 0.03	3.59	0.05	
平成 29 年度	2.23	0.06	3.52	▲ 0.07	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	千葉ニュータウン事業地域内の宅地処分は平成30年度中の完了を目標とし、その後の土地利用については、地区計画等を活用しつつ良好な住環境の形成、保全を促進していく必要がある。 印旛中央地区区画整理事業については、地権者主体の検討組織とともに、事業の再構築に向けた検討を行っていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 木下駅周辺施設整備の進捗率 (印旛高校跡地活用整備)	%	35.5	100		100	100.0%
2 小林駅周辺施設整備の進捗率 (小林駅舎等、小林駅前広場の整備)	%	37.8	100		88.4	88.4%
3 市道00-031号線整備事業の進捗状況	%	86.8	100	86.8	53.2	61.3%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	事業用地取得に向けた交渉が継続中である。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	C 全体的に目標値をやや下回る	小林駅南口において自由通路が供用開始された。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	小林駅南口自由通路の供用開始など一定の成果が得られている。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 21. 土地の有効利用・都市機能の強化

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.20		3.54		
平成 27 年度	2.17	▲ 0.03	3.59	0.05	
平成 29 年度	2.23	0.06	3.52	▲ 0.07	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	現事業においては事業用地を取得する必要があるため、早期整備に向け関係地権者より協力が得られるよう用地交渉に努める。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



# 施策評価票

取りまとめ部課名	都市建設部	建設課	施策番号	5-②-1
関係する課等	土木管理課			

基本目標	5	快適で暮らしやすい都市機能の充実した美しいまちをつくる【都市基盤】		
政策	②	生活を支える交通環境を整備する〔道路・公共交通〕		
施策	1	市民生活を支える道路網の整備・維持管理	重点施策	—

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	関係自治体等と連携を図りながら計画的な道路整備を促進し、周辺諸都市との広域的な交通軸の強化を図っていきます。また、市内における駅圏や地区拠点間の地域交流のための道路網の整備を進めるとともに、整備済みの道路等について常に安全で快適に利用できるよう、適切な維持管理に努めます。
主な取り組み	<p>●<b>広域・主要幹線道路の整備促進</b></p> <p>市中央部の主要交通軸である北千葉道路(国道464号)をはじめ、主要地方道千葉竜ヶ崎線((仮称)コスモス通り)、主要地方道鎌ヶ谷本埜線、一般県道八千代宗像線、一般県道印西印旛線の早期整備を促進していくとともに、千葉柏道路や主要地方道船橋印西線、(仮称)若草大橋延伸線の早期事業化についても関係機関に要望を行っていきます。</p>
	<p>●<b>地区幹線道路・生活道路の整備</b></p> <p>地区幹線道路である印西牧の原駅圏と小林駅圏を結ぶ市道00-031号線の整備を進めます。また、市道の00-116号線、00-026号線延伸区間、松崎・吉田線、笠神中田切線、竜腹寺線及び師戸・江川線等の整備を進め、地域内交通の円滑化と生活環境の向上を図ります。</p>
	<p>●<b>道路の適切な維持管理の推進</b></p> <p>既設の道路や橋梁などの状況を的確に把握しながら、計画的な修繕・補修等を実施し、安全で快適な道路環境を確保していきます。また、道路付属物についても総合的に点検を進め、計画的に修繕・補修等を推進します。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
北千葉道路の建設促進	建設課		○	B	F	B	事業継続
市道00-031号線整備事業	建設課		○	B	B	B	事業継続
市道00-116号線整備事業	建設課	●	○	B	B	B	事業継続
市道00-026号線延伸区間道路整備事業	建設課	●	○	B	C	C	事業継続
市道松崎・吉田線整備事業	建設課	●	○	B	C	B	事業継続
市道竜腹寺線整備事業	建設課	●	○	D	E	D	事業継続
市道00-107号線整備事業	建設課	●	○	B	F	B	事業継続
道路維持管理事業	土木管理課	●	○	A	B	B	事業継続
雨水排水対策事業	土木管理課	●		A	F	A	事業継続
橋りょう点検・修繕事業	土木管理課			A	F	A	事業継続

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 都市計画道路の整備率	%	74.8	87.2	79.88	77.29	96.8%
2 舗装修繕(平成28年度より延べ)	km	0.6	18.9	7.56	1.89	25.0%
3 橋梁点検(平成28年度より延べ)	橋	5	190	76	115	151.3%
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由(評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	第2次基本計画に沿った整備が進められている。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	指標項目ごとに達成度のバラツキはあるが、橋梁点検などでは目標以上の成果をあげることができた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	指標項目ごとに達成度のバラツキはあるが、橋梁点検などでは目標以上の成果をあげることができた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 22. 道路網の整備・充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考(調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.54</b>		<b>3.59</b>		
平成 27 年度	<b>2.56</b>	0.02	<b>3.63</b>	0.04	
平成 29 年度	<b>2.43</b>	▲ 0.13	<b>3.69</b>	0.06	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	最近では、道路施設の老朽化への対応などで維持管理の負担が大きくなっている状況があり、新設道路整備とのバランスが難しくなっている。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	コミュニティバス利用者数	人	223,694	↗	前年比増	246,424	
2	市内駅の1日あたりの乗降客数	人	49,521	↗	前年比増	50,874	
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通りに事業を実施することができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標値を概ね達成することができた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	計画通りに事業を実施し、成果目標も達成することができたため、施策を推進できたと考える。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 23. 公共交通の充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	1.78		3.79		
平成 27 年度	1.64	▲ 0.14	3.79	0.00	
平成 29 年度	1.54	▲ 0.10	3.82	0.03	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
 平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
 平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
 平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	交通不便地域対策を早急に講じていく必要があるとともに、ふれあいバスについては、現在のルート等になって10年が経過していることから、総合的な見直し時期に差し掛かっており、これらの課題を解消するために、バスルート及びバス停の重複や運行時間の長時間化の解消、運行目的地の明確化等が必要と考えられる。また、北総線高運賃対策については、結果につながっていない部分がある。
今後の施策展開の方向性	イ 事業を一部見直し推進していく
※具体的な見直し内容等	北総線耐震化対策事業については、平成29年度をもって耐震化事業が完了したため事業からはずす。



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	下水道整備率	%	87.4	97.0	94.0	95.9	102.0%
2	長寿命化計画におけるマンホール蓋の更新箇所	箇所	0	150	60	46	76.7%
3	市営水道の普及率	%	67.8	74.3	73.2	69.75	95.3%
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通りに上下水道施設の整備が完了した。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	下水道整備率及び、水道普及率が向上した。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	上下水道の普及促進を推進することができた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 24. 上下水道の整備

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	3.07		3.72		
平成 27 年度	3.17	0.10	3.76	0.04	
平成 29 年度	3.09	▲ 0.08	3.69	▲ 0.07	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	快適な生活環境の形成に向け、公共下水道の整備による水質保全及び市街地浸水防除を図ると共に、水道事業により、未給水区域への配水管整備を進めていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 景観計画の策定		-	策定	策定	策定	
2 景観セミナーの開催数(年)	回	-	1		0	
3						
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	平成29年度内に景観計画の策定が完了した
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	景観セミナーの開催は行わなかったものの、窓口業務の中で景観計画の周知に努めた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段・成果に対する評価値がともにBであり、ほぼ計画通りに施策を推進できた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 25. 都市景観づくり

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.77		3.45		
平成 27 年度	2.88	0.11	3.41	▲ 0.04	
平成 29 年度	2.90	0.02	3.47	0.06	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	市民や事業者と協働し、良好な景観形成を推進するための体制の構築が必要となる。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	住宅耐震化率	%	91.5	95.0	91.5	91.5	100%
2	住宅困窮者への住宅情報の提供数	件	200	240	240	122	51%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	啓発活動を予定通り行い、実績が伴った。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	住宅リフォームについては、予算額により目標値を下回ったが、その他の事業については、計画通りの事業実績・成果であった。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段・成果に対する評価値がともにBであり、ほぼ計画通りに施策を推進できた

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 26. 住宅施策の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.77		3.53		
平成 27 年度	2.89	0.12	3.52	▲ 0.01	
平成 29 年度	2.73	▲ 0.16	3.43	▲ 0.09	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	生活の基盤である住宅に永く住み続けてもらうための施策を講じているが、所有者等の諸事情により管理されていない空家等が増加している傾向にある。今後においては、空家等対策計画を策定し、所有者等に適切な管理や利活用を促進するため、周知啓発や相談体制の充実を図ることが重要である。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	

# 施策評価票

取りまとめ部課名	総務部	秘書広報課	施策番号	6-①-1
関係する課等	秘書広報課	情報管理課	シティプロモーション課	

基本目標	6	市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる【住民自治・協働・行財政】		
政策	①	市民が主体のまちづくりを推進する【住民自治】		
施策	1	市政情報の共有化と市民参加によるまちづくり	重点施策	ブランド向上

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	<p>市民、事業者と行政が相互の信頼関係に基づき、自らの役割を十分に発揮できる協働のまちづくりを進めるため、市民参加条例の制度・意義の周知を図るとともに、多様な媒体を活用した広報活動や情報提供、きめ細かな広聴、情報公開制度の適正な運用に取り組み、市民、事業者と行政との円滑なコミュニケーションを構築していきます。</p> <p>また、シティセールスの推進では、首都圏内の子育て世代を中心に、広く市内外にまちの魅力を発信し、認知度を高めていきます。</p>
主な取り組み	<p>●市民参加意識の向上 市民参加の重要性や協働によるまちづくりの必要性を啓発するため、広報紙やホームページの活用のほか、意識を高めるための講座や研修会を実施するなど、積極的な市民参加意識の向上に努めます。</p> <p>●適切な制度運用と参加機会の拡充 市民参加の推進のため、市民参加条例の周知を図るとともに、各種審議会等への積極的な公募委員の登用や適切な市民参加手続の実施など、誰もが市政に参加しやすい体制を構築し、魅力と活力のある地域社会の発展に寄与していきます。</p> <p>●広報・情報提供の充実 市政情報を迅速・的確に市民等に提供するため、広報紙、ホームページ、行政資料コーナーの充実を図るとともに、SNS等での積極的な情報提供の検討を進めます。また、公募した広報レポーターの参画などにより市民にとって見やすく魅力的な広報紙の作成に努めます。</p> <p>●広聴の充実 市民等の意見や意向を的確に把握するため、市政ポストの設置や市長談話室、市長懇談会、市民満足度・重要度調査などを実施していきます。</p> <p>●情報公開制度の適正な運用 文書ファイリングシステムの運用により公文書の適正な管理を行うとともに、情報公開条例の適正な運用を図り、市の保有する情報の公開に努めます。</p> <p>●シティセールスの推進 地域の貴重な財産である人や自然、文化、産業、都市基盤など合併によって高められた「まちの魅力」を、産学官との連携やふるさと寄附金のPRなどにより、市内外へ情報発信し、認知度の向上を図ることで、定住化促進のための活力あるまちづくりと多様な交流につなげていきます。また、自慢できる「まちの魅力」を再発見することで、故郷として誇りと愛着を持ち、まちづくりに積極的に関わる市民の増加を図り、市の持続的な発展をめざします。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
市民参加推進事業	市民活動推進課		○	B	B	B	事業継続
広報紙発行事業	秘書広報課		○	B	B	B	事業継続
ホームページの更新管理	秘書広報課		○	B	B	B	事業継続
広聴事業	秘書広報課		○	B	B	B	事業継続
情報の公開	情報管理課		○	B	B	B	事業継続
シティセールスの推進	シティプロモーション課	●		B	B	B	事業拡大

### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 審議会等における公募委員の割合	%	19.0	25.0	22.0	16.8	76.4%
2 市民満足度・重要度調査の満足度 (市政への市民参加)		2.69			2.50	
3 市政ポストへの意見数	件	187	160	180	213	118.3%
4 市政情報の公表・提供数	件	968	1,258	1,084	1,069	98.6%
5 市ホームページアクセス数	千件	739	762	750	663	88.4%
6 ふるさと寄附金申込件数	件	3	80	60	55	91.7%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおりの活動実績となったため。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標値に達する実績となったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともに Bであり、概ね計画通りに推進できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 27. 市政への市民参加

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.54		3.41		
平成 27 年度	2.50	▲ 0.04	3.43	0.02	
平成 29 年度	2.50	0.00	3.29	▲ 0.14	

#### 28. 市政情報の公開・提供

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備 考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.84		3.54		
平成 27 年度	2.86	0.02	3.52	▲ 0.02	
平成 29 年度	2.77	▲ 0.09	3.43	▲ 0.09	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。  
平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。  
平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。  
平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	満足度・重要度調査結果では市政への市民参加に対する評価があまり高くないことから、市民参加の重要性や必要性をより啓発していく必要がある。また、市政情報の公開については満足度が平均以上ではあるものの、前回は大きくポイントを下げている、いかに市政情報を見やすく提供していけるかが今後の課題である。
----------------	---

今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	町内会等団体数	団体	171	175	172	174	101.2%
2	コミュニティセンター利用者数	人	105,473	106,000	105,700	100621	95.2%
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	すべての項目でほぼ目標どおり達成できた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	すべての項目で80%以上を達成できた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともにBであり、ほぼ計画通りに推進できた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 29. 地域コミュニティ活動の推進

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.84		3.31		
平成 27 年度	2.83	▲ 0.01	3.31	0.00	
平成 29 年度	2.81	▲ 0.02	3.33	0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	町内会等は役員等の高齢化や担い手不足等、様々な課題を抱えている。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	





### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 市民活動支援センター登録団体数	団体	100	110	104	136	130.8%
2 市民等との協働の取り組み数	件	67	80	74	85	114.9%
3 事業所・教育機関と連携して行った 取り組み数	件	56	60	60	90	150.0%
4 産学官まちづくり懇話会による新規 連携事業件数	件	0	5	2	0	0.0%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね計画通りに事業を実施することができた。
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	目標値を概ね達成することができた。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	計画通りに事業を実施し、成果目標も達成することができたため、施策を推進できたと考える。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 30. 市民活動支援・パートナーシップづくり

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.77		3.17		
平成 27 年度	2.76	▲ 0.01	3.22	0.05	
平成 29 年度	2.70	▲ 0.06	3.18	▲ 0.04	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	特定の事業者等で組織した産学官まちづくり懇話会は機能せずに活動が停止したが、市民を含め各事業所や教育機関等との協働・連携事業は増加傾向であり、個別の連携は促進されているので、今後も多様な主体と連携したまちづくりを進めていく。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)			
				目標値	実績値	達成度	
1	審議会等における女性委員の割合	%	28	30	30	28	
2	女性の悩み相談の相談者数	人	100	120	120	98	
3							
4							

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	男女共同参画の啓発ができた。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	参加者を増やす工夫が必要である。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	ほぼ計画通り事業を行えた。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 30. 市民活動支援・パートナーシップづくり

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.77		3.17		
平成 27 年度	2.76	▲ 0.01	3.22	0.05	
平成 29 年度	2.70	▲ 0.06	3.18	▲ 0.04	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	女性活躍推進法の施行に伴い、多様な働き方を選択できるための環境づくりのため、あらゆる分野における男女平等の意識づくりが依然として課題であり、また家庭における日常の役割分担について夫と妻の間で乖離が見られること、子育てと仕事の両立が難しいことにより働きたくても働けない女性も多いこと、男性の、育児・介護休業や子の看護休暇等の取得も進んでいないこと等、課題は多く、様々な支援や施策を展開していく必要がある。さらにLGBTへの正しい理解や対応についても、今後検討していく必要がある。
----------------	--

今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 休日窓口での対応数(来客者数)	人	4,343	5,000	4,500	5,420	120.4%
2 公共施設予約の電子申請数	件	25,859	27,000	26,500	27,752	104.7%
3 電子申請対象手続数	手続	17	25	22	18	81.8%
4 市税等の納付種別別収納件数 (コンビニエンスストア・マルチペイメント)	件	64,535 6,187	現状維持	現状維持	現状維持	
5 市民生活相談・法律相談・人権相談・ 行政相談者数(年間)	人	373	430	400	357	89.3%

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の 手段に対する評価	B 概ね妥当である	全事業ともほぼ目標どおり実施できた
② 施策の成果目標達成 状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	全事業ともほぼ目標値を達成した
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	全事業ともほぼ計画どおり実施できた

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 31. 市民サービスの充実

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	2.86		3.59		
平成 27 年度	2.86	0.00	3.61	0.02	
平成 29 年度	2.88	0.02	3.55	▲ 0.06	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進して いく上での課題	休日における窓口開庁については、現状、市民サービスの向上という形になっているが、マイナンバーカードによる住民票等のコンビニ交付を開始したことに伴い、効率的かつ効果的な窓口開庁の実施をすることが課題である。 また、市民相談については、市民の日常生活における悩みや問題に対し、より相談しやすい環境の提供が課題である。
今後の施策展開 の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	市民サービスの充実を図るために、マイナンバーカードによる住民票等のコンビニ交付が開始したことに伴い、今後、休日における窓口開庁の見直しを検討する。また、市民相談については、相談事業を整理し、会場、実施日時、実施回数等、市民のニーズに沿った効果的な対応及び周知の方法を検討する。



# 施策評価票

取りまとめ部課名	総務部	総務課	施策番号	6-③-2
関係する課等	資産経営課	財政課	企画政策課	

基本目標	6	市民と行政がともに歩み健全で自立したまちをつくる【住民自治・協働・行財政】		
政策	③	市民ニーズに応じた効率的で効果的な行財政運営を行う【行財政】		
施策	2	持続可能な行財政運営の実現	重点施策	持続可能

## 1. 施策の方向性と主な取り組み（基本計画）

施策の方向性	行政改革大綱に基づく事務事業の見直し、公共施設の整理統合、将来の財政負担を見通した効率的な財政運営の推進などにより、自立した基礎自治体としての総合かつ専門的な行政機能の強化を図っていきます。また、総合計画に基づき持続可能な行財政運営を推進していきます。
主な取り組み	<p>●事務事業の合理化</p> <p>多様化、複雑化する市民ニーズに柔軟かつ効率的に対応できるよう、事務事業の再編・整理や民間委託を推進することによる業務の合理化に取り組みます。また、公共施設等総合管理計画を策定し、施設の整理統合などを行い、既存ストックのマネジメントにも取り組みます。</p>
	<p>●職員の育成と定員管理の適正化</p> <p>社会情勢の変化や様々な行政課題に的確に対応できる職員の育成のため、実践的な研修への参加機会の確保と、庁内研修(OJT)の積極的な活用を図るとともに、適材適所の人事配置等を行うことにより機能的な組織体制を構築していきます。</p> <p>また、定員管理計画に基づき行政需要に見合った適正な定員管理を進めるとともに、再任用職員の活用により、任期付職員、非常勤職員及び臨時職員の任用を最小限度とし、人件費の抑制に努めていきます。</p>
	<p>●健全で安定的な財政運営の推進</p> <p>中長期的な視点に立った計画的で安定的な財政運営を進めていくため、市税等の徴収対策などにより自主財源を確保していくとともに、職員、公共施設、財源等をより効率的かつ効果的に活用し、歳出経費の抑制に努めていきます。</p>
	<p>●総合計画の適切な進行管理</p> <p>総合計画に基づいた、かつ市民ニーズに対応した行政運営を進めるために、市民満足度・重要度調査を実施するとともに、行政評価や審議会を活用し、施策や事業の計画的・効率的な進行管理を行います。</p>
	<p>●広域連携の推進</p> <p>行政区域を越えた広域的な行政課題に対して、効率的・効果的な解決が図れるよう、課題に応じて関係自治体との連携や取り組みを推進していきます。</p>

## 2. 施策の目的達成のための具体的な手段（実施計画事業）

事業名	担当課	主要事業	新市計画	担当課における評価・検証結果			
				活動評価	成果評価	総合評価	今後の方向性
事務事業の再編・整理	総務課		○	F	B	B	事業継続
公共施設の整理統合と有効利用	資産経営課		○	B	F	B	事業継続
行政評価推進事業	企画政策課			B	A	B	事業継続
定員管理の適正化	総務課		○	B	B	B	事業継続
職員能力の向上	総務課		○	B	B	B	事業継続
計画的な財政運営	財政課		○	B	B	B	事業継続
第2次基本計画等の推進	企画政策課			C	B	B	事業継続
広域的連携体制の強化	企画政策課			B	B	B	事業継続
近隣自治体とのまちづくり連携	企画政策課			B	B	B	事業統合



### 3. 施策の成果目標

指標項目	単位	基本計画 現状値 (H26)	基本計画 目標値 (H32)	評価年度 (H29)		
				目標値	実績値	達成度
1 職員数	人	665	675	669	663	99.1%
2 経常収支比率	%	86.1	90以下	90.0	算出中	
3 実質公債費比率	%	8.0	10以下	10.0	算出中	
4						

### 4. 施策に対する評価

評価項目	評価	評価理由 (評価に対する特記事項)
① 施策の目的達成の手段に対する評価	B 概ね妥当である	概ね目標どおりの活動実績となったため。
② 施策の成果目標達成状況に対する評価	B 全体的にほぼ目標値を達成した	ほぼ目標値に達する実績となったため。
③ 総合評価	B ほぼ計画通りに施策を推進できた	手段に対する評価、状況に対する評価ともにBであり、概ね計画通りに推進できたため。

### 5. 施策に対する市民の満足度・重要度調査結果

#### 32. 効率・効果的な財政運営

調査年度	調査結果 (左欄:ポイント 右欄:前回比較)				備考 (調査結果に関する特記事項)
	満足度		重要度		
平成 25 年度	<b>2.37</b>		<b>3.66</b>		
平成 27 年度	<b>2.47</b>	0.10	<b>3.64</b>	▲ 0.02	
平成 29 年度	<b>2.34</b>	▲ 0.13	<b>3.62</b>	▲ 0.02	

#### ※満足度及び重要度の算出方法

「満足(重要)」…4点、「やや満足(やや重要)」…3点、「やや不満(あまり重要でない)」…2点、「不満(重要でない)」…1点、とし、各項目の合計点を算出し各設問ごとの有効サンプル数で割ったもの。

平成25年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.54である。

平成27年度の満足度平均値は2.71、重要度平均値は3.55である。

平成29年度の満足度平均値は2.69、重要度平均値は3.51である。

### 6. 今後の課題と展開

施策を推進していく上での課題	歳入面では市村合併に伴う普通交付税の特例措置分の段階的な縮減が平成27年度から始まっており、歳出面でも高齢化の進展や福祉ニーズ等の増大に伴う社会保障関係経費の増加や、公共施設の維持管理及び改修費の増加が見込まれることから、限られた財源で、適正な職員数の確保に努めるとともに行政改革大綱に基づく各種取り組みを実施し、柔軟かつ効果的な行財政運営を行う必要がある。
今後の施策展開の方向性	ア 現行の事業体系で推進していく
※具体的な見直し内容等	